

コンプライアンス(法令順守)と技術者倫理

コンプライアンスは、狭義には企業における法令順守のことであるが、広義には倫理や社会習慣を守ることも含まれ、規範順守が適切な訳語である¹⁾。近年、食品偽装、保険金の不払い及び粉飾決算など、企業によるコンプライアンス違反が相次いでいる。違反企業は、刑法や民法などによって法的責任を追及されるだけでなく、消費者や取引先の信頼を失い売上低下から倒産する事例も多くなっている。このため、我が国では、コンプライアンスが声高に叫ばれ、企業のリスクマネジメントとしても重要視されている。また、最近では、法令順守をして倫理的に企業活動を行うだけでは不十分であり、企業として積極的に情報公開や説明責任を果たし、自律的に社会貢献や環境問題に取り組むことが求められている。すなわち、企業の社会的責任(CSR)を果たすことが、良い企業として生き残る条件になりつつある。しかし、近年の報道などを見ると、CSR どころかまだコンプライアンスさえ十分ではない企業や団体が多いことが分かる。

一方、技術者倫理は、狭義には技術者の倫理であるが、広義には技術業の倫理であり、技術業に携わる全ての人に必要な倫理を体系的に学ぶための科目である。技術者として、いざという時に適切な判断が出来るように、様々な事例研究を通じて、倫理だけでなく科学技術や法律の観点から最良の解決方法を見つけ出す訓練をするのである。まずは、企業や団体の中で、情報や問題を共有して解決することが最も大切であるが、困難な局面では、公衆の安全や健康を最優先に内部告発をする勇気も必要であることを学ぶのである。技術者倫理は、この他にも損害賠償と PL 法の関係、説明責任や情報公開の重要性、環境問題や知的財産権の大切さなどを体系的に学ぶもので、技術者だけでなく技術業に携わる全ての人にとって正に必修の科目と言える。

これらの説明からも明らかなように、コンプライアンスは、狭義には企業における法令順守のことであるが、突き詰めると企業の社会的責任(CSR)に行き着く。CSR で求められる事は、対象が企業か個人かの違いを除けば、技術者倫理で学ぶ事とほとんど同じである。したがって、コンプライアンスはもちろん CSR を重視する企業や団体は、組織として技術者倫理を学ぶことが大切である。もちろん、組織として学ぶ場合は、技術者だけでなく、事務職や営業職、管理者や経営者も含めて学ぶ必要がある。企業に所属する全ての人が技術者倫理を学ぶことによって、企業倫理が高まり、コンプライアンスや CSR の実現が可能になるのである。

最近報道されているコンプライアンス違反は、内部告発によるものが殆どであると言われている。内部告発によって問題が明らかになっても、自分が解雇されたり所属する企業が倒産しては意味がない。技術者倫理は、内部告発を勧めている訳ではなく、内部告発をしなくても問題解決が出来る技術者や企業を目指しているのである。企業の経営者は、この点を良くご理解頂き、社員だけでなく自らも技術者倫理を学んで欲しいと切に願っている。

1) 杉本泰治：技術者倫理からみたコンプライアンス，安全工学，Vol. 47，No. 1，pp. 10-16，2008.